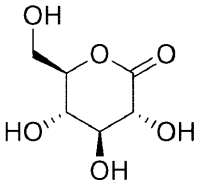
【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】令和2年5月14日(2020.5.14)

【公表番号】特表2019-510761(P2019-510761A)
【公表日】平成31年4月18日(2019.4.18)
【年通号数】公開・登録公報2019-015
【出願番号】特願2018-548699(P2018-548699)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｋ　31/366　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　 9/00　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　31/10　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　45/00　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｋ　31/366
Ａ６１Ｋ　 9/00
Ａ６１Ｐ　31/10
Ａ６１Ｋ　45/00

【手続補正書】
【提出日】令和2年3月30日(2020.3.30)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
活性成分としてグルコノδ－ラクトン（式（ＩＩＩ））
【化１】



（ＩＩＩ）

を含む、真菌感染症の予防または治療における使用のための医薬。
【請求項２】
前記真菌感染症が、泌尿生殖器の真菌感染症である、請求項１に記載の医薬。
【請求項３】
前記泌尿生殖器の真菌感染症が、外陰膣カンジダ症である、請求項２に記載の医薬。
【請求項４】
前記外陰膣カンジダ症が、カンジダ・アルビカンス（Ｃａｎｄｉｄａ　ａｌｂｉｃａｎｓ）、カンジダ・グラブラータ（Ｃａｎｄｉｄａ　ｇｌａｂｒａｔａ）、カンジダ・クルーセイ（Ｃａｎｄｉｄａ　ｋｒｕｓｅｉ）および／またはカンジダ・トロピカリス（Ｃａｎｄｉｄａ　ｔｒｏｐｉｃａｌｉｓ）によって引き起こされる、請求項３に記載の医薬。
【請求項５】
薬学的に許容される賦形剤を含む、請求項１～４のいずれか一項に記載の医薬であって、前記グルコノδ－ラクトンが、前記医薬の５～９９重量％の量で存在する、医薬。

【請求項６】
前記グルコノδ－ラクトンが、前記医薬の１０～７０重量％の量で存在する、請求項５に記載の医薬。
【請求項７】
１０重量％以下の水を含む、請求項１～６のいずれか一項に記載の医薬。
【請求項８】
ミコナゾール、テルコナゾール、イソコナゾール、フェンチコナゾール、フルコナゾール、ナイスタチン、ケトコナゾール、クロトリマゾール、ブトコナゾール、エコナゾール、チオコナゾール、イトラコナゾール、５－フルオラシル、およびメトロニダゾールからなる群から選択される抗真菌剤をさらに含む、請求項１～７のいずれか一項に記載の医薬。
【請求項９】
担体、充填剤、および／またはバッファー剤もしくはｐＨ調整剤を含む、請求項１～８のいずれか一項に記載の医薬。
【請求項１０】
投与後に長期間にわたってグルコノδ－ラクトンを放出するように製剤化されている、請求項１～９のいずれか一項に記載の医薬。
【請求項１１】
タンポン、バジトリウム、膣エアロゾル、膣カップ、膣ゲル、膣挿入物、膣パッチ、膣リング、膣スポンジ、膣坐剤、膣クリーム、膣エマルション、膣フォーム、膣ローション、膣軟膏、膣粉末、膣シャンプー、膣溶液、膣スプレー、膣懸濁物、膣錠、膣ロッド、膣ディスク、膣デバイス、およびその任意の組み合わせとして製剤化されているか、または衛生用品上に存在する、請求項１～１０のいずれか一項に記載の医薬。
【請求項１２】
バジトリウム、膣挿入物、膣リング、膣坐剤、膣錠、膣ロッド、または膣ディスクとして製剤化されている、請求項１１に記載の医薬。
【請求項１３】
カンジダ属の種によるバイオフィルム形成を低減または予防する能力を有する、請求項１～１２のいずれか一項に記載の医薬。
【請求項１４】
真菌感染症の予防または治療のための医薬の製造における、グルコノδ－ラクトンの使用。